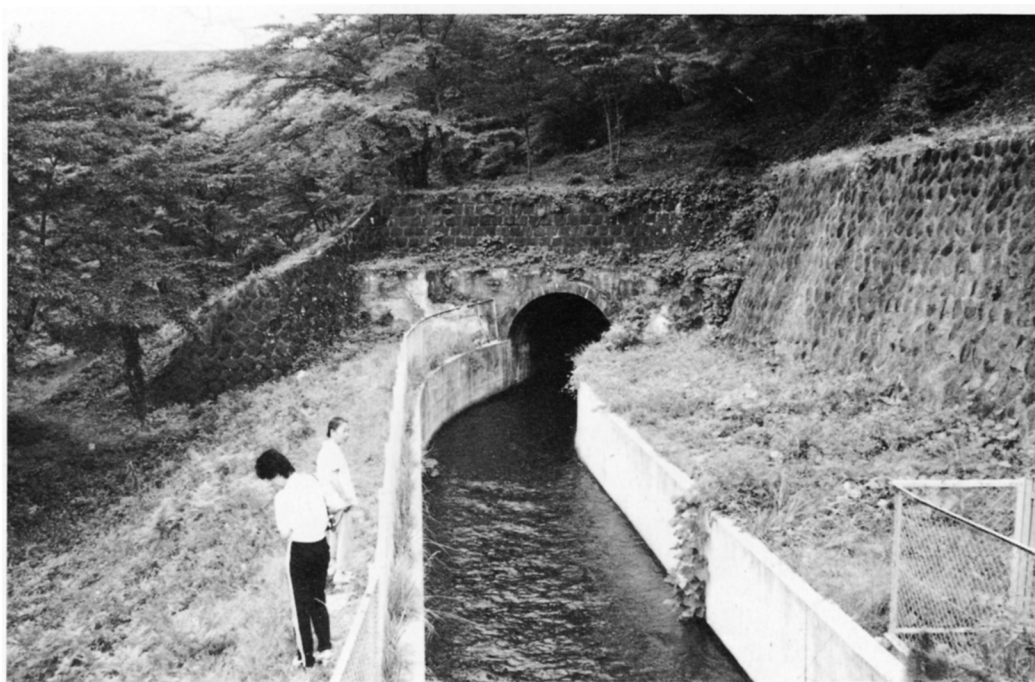


(二) 米づくりのくふうとついで

水のとり入れ 昔から米づくりのさかんな大玉村では、村の中央部から東に広がる平地の田に、川やため池から水をひいています。

杉田川、百日川、安達太良川には、ダムやせきなどをつくり、水の取り入れ口から水路を利用して水をひいています。また、三森ため池は玉井の広い地いきに水を送り、いちぶは本宮町の田にも使われています。玉井のいちぶには新安積あさかそ水の水も来ています。

広がる田 昔は、あまりきかいを使うことがなかったので、いろいろな形の田や、小さい田が多くありました。しかし、近ごろ、大き



(水のとり入れ口)